リサイクル推進セミナー

課題や現状理解

県産廃協

県と県産業廃棄物協会（永田雄一会長）は5日、鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで産業廃棄物リサイクル推進セミナーを開いた。関係者約100人が参加し、リサイクル上の課題や処理の現状に理解を深めた。

約100人が参加したセミナー＝鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテル

同日は、泥土リサイクル協会の野口真一事務局長が建設汚泥のリサイクルについて解説。発生土における泥土の位置付けを示しながら、適正に処理するためのポイントを説明したほか、先駆的な事例も紹介した。

野口氏は、杭工事から発生する建設汚泥（産業廃棄物）について「バックホウによる混合かくはんを行っても、要求品質を安定的・継続的に確保するのは困難であり、一部でも不良なものがあれば産業廃棄物として処分しなければならない」と指摘。続けて「品質を確保できるNETIS技術を活用するとともに、リサイクル時は所轄する関係部局へ確認を」とアドバイスした。

このほか、同協会の西川美穂コミュニケーションズマネージャーが、廃石膏ボードリサイクルの取り組みについて講演を行った。

永田会長は「建設系産業廃棄物はリサイクル促進が図られているが、リサイクル製品の販路拡大やシステム構築などが課題。セミナーを契機にさらなる促進につなげたい」と呼び掛けた。

農業用ため池の災害学習

防災意識の持ち方学ぶ

農業用ため池ハザードマップの確認と災害学習が3日、霧島市の竹子集会センターで開かれた＝写真＝。地域住民ら約60人が出席して、近くにある栗下池も見学して集落との位置関係も確認。災害事例からも防災意識の持ち方や避難方法、経路を学んだ。

同市内には、農業用ため池が29カ所あり、そのうち溝辺町には16カ所、竹子地区には7カ所もある。東日本大震災や九州北部豪雨災害では、ため池の決壊により死亡事故が発生している。

湧水を集め、農業用用水と利用する目的で整備されているため池は、自然流下により配水していることが多く、田畑より高い位置にあることが多い。さらに江戸時代から利用されているものもあるなど、老朽化が著しい。

現状を知ると同時に、ビデオ講演からは①想定を信じるな②その状況下で最善を尽くせ③率先避難者となれ－の教訓を学んだほか、暫定版のハザードマップで到達時間や範囲、連絡手法等を確認して、防災・減災害に対する考え

同市耕長は「ハ住民参加で、防災られると識を持つと話した

願書申請

1・2級 土木・建築・電気工事施工管理技士

座を開催

一九州事業部

建設管理センター九州事業部は、2018（平成30）年度の国土交通大臣資格である土木・建築・電気工事施工管理技士など各施工管理技士の資格取得に向けた「合格支援講座」を4月から、電子付けているが、合格責任指導のため各講座とも定員は50人。定員制に付き、早めの申し込みを呼び掛けている。

国土交通省は、高齢化による技術者の減少に歯止めを掛けるため、現場の監理管工事・造園・建設機械についても学科試験を年2回に増やし、全6種目で受験チャンスの拡大を図っていく。

建設業界にも構造変化が起きており、1業者が複数の許可業種を取得する〝多角化経営〟業者が増加している。また、元請業者の下請選定に活用される「専門工事業評価制度」の実施も進んでいる。

このような状況下、同センターでは、30年の実績とノウハウを生かし、毎年1万人以上の合格者を送り出している。特に「第一線で働き、時間的に余裕がない受講生を対象に、合格を支援」

「造園」の各施工管理技士で、1級15万円（全9回・実地含む）、2級12万円（全8回・実地含む）。「建設機械施工技士」は1級9万円（全7回）、2級7万円（全5回）。また、「給水装置工事主任技術者」は9万円（管工事施工管理技士取得者7万円）となっている。

なお、同講座は公的助成金対象のまま、NPOS認

二十四日会「厄を払う会」

厄を払った大城氏（右）と摺木氏＝鹿児島市のアクアガーデンホテル福丸

二十四日会（川原剛会長）は2日、鹿児島市のアテル福を払う会員やが参加る大城摺木陽の無病事を執

発起設同志長（国んなに き受け気で長と挨拶。長（天

鹿児島の発展のために

14青年団体が

県建築協会青年部会（堀ノ内茂樹部会長）をはじめ建設関係14青年団体が一堂信や意見春の集い